

『近代化遺産をめぐる』

横浜開港遺産

『横浜赤レンガ倉庫周辺』

今日は、専門支援サポーター〈旅サポーター〉の木村泉さん（NPO高齢者・障がい者の旅をサポートする会）に同行していただき、安全で安心な外出・散歩を満喫しました。

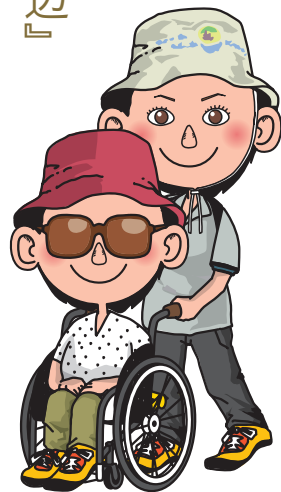
車イスは扱いやすく、進化した現代派モダンな「ムーヴ製・ラリーマグネシウム」を試乗させていただきました。

取材・レポート：『めづるくらし』研究会 編集部・和久秀

※…〈旅サポーター〉についての詳細はP10、
〈ムーヴ製・ラリーマグネシウム〉はP13をご参照ください。



〈横浜赤レンガ倉庫〉は、1号倉庫（1913（大正2）年）、2号倉庫（1911（明治44）年）があり、建築当時から非常用水管や防火戸、荷役エレベーターのなど、当時の最新技術が導入されている。



〈横浜三塔〉めぐり

※…工事中で外観が見えない場合も多いので事前チェックが必要。



〈横浜市開港記念会館〉の時計塔の愛称は「ジャック」。1927（昭和2）年に、初期の建築を復元し再建。



〈神奈川県庁本庁舎〉の愛称は「キング」。関東大震災で焼失後、1928（昭和3）年10月31日に再建。



〈横浜関税〉の愛称は「クイーン」。美しい緑青色の塔は、1934（昭和9）年に帝都復興事業の一環として再建。



〈象の鼻パーク〉は、象の鼻波止場を明治中期の形状に復元し、「横浜港開港150周年」の2009（平成21）年6月2日に開園。

港町・横浜でもつとも横浜らしい赤レンガ倉庫周

辺は、レトロな建物が美しく、明治時代へタイムスリップ。今回は、日本近代化の歴史が残る人気スポットをめぐります。

〈日本大通り駅〉（みなとみらい線）から地上に出て見上げると、〈横浜三塔〉と親しまれる〈横浜市開港記念会館〉があり、駅周辺の〈神奈川県庁本庁舎〉〈横浜関税〉と出会えます。まずは〈横浜開港資料館〉で港町の歴史をおさらいして、〈日本大通り〉（エポラントンの設計、日本初の西洋式街路は明治3年頃完成）を眺めながら〈新港地区〉へと向かいます。

〈象の鼻パーク〉から、〈象の鼻突堤〉〈横浜港大さん橋・国際客船ターミナル〉、遠くに1989（平成元）年に開通した〈横浜ベイブリッジ〉が一望できます。

〈横浜開港150周年記念碑〉から〈新港橋梁〉を渡ります。その先には1989（平成元）年まで倉庫として使用されていた、今では多くのイベントでにぎわう〈横浜赤レンガ倉庫〉2棟がそびえています。そして路上のオブジェと化している線路（レール）を進み、〈旧横浜港駅プラットホーム〉に向かいます。



路上の人気アート〈みなとみらいタイルコレクション〉より。



1981（昭和56）年、横浜開港百年を記念して開館した〈横浜開港資料館〉。この地は1854（安政元）年の日米和親条約締結の地であり、旧館は英国総領事館として、1931（昭和6）年に建てられた。『近代横浜の記憶装置』としての役割を担い、収集資料は25万点にもおよぶ。土産に最適な絵葉書（1枚95円＋税）も販売中。



〈新港橋梁〉は、1912（大正元）年に建造。旧横浜駅（現桜木町駅）から延びる貨物線の鉄道橋（横浜臨港線）。

【車イスでの観光地散歩の注意点】

▼車イスの人の視界は、低いです。せつかくの景観も手すりなどの障害物で見えないことがあるので、案内する際は注意してください。
▼未舗装道路や凸凹が続くところでは、車イスから伝わる振動による体への負担が大きいです。できるだけゆっくり進むことが大切。前輪を少し上げた状態で進むと、振動を抑えることができます。



〈象の鼻突堤〉と、後方の〈横浜港大さん橋・国際客船ターミナル〉を望む。大さん橋は、1894（明治27）年に完成した鉄棧橋を前身とし、拡張工事によって現在の形となる。ターミナル屋上は、ウッドデッキと芝生の緑地。



〈旧横浜港駅プラットホーム〉は、1911（明治44）年に荷役所として開設。復元・保存されている。